

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和6年度病害虫発生予察注意報第6号について

令和6年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

## 令和6年度病害虫発生予察注意報第6号

冬春ピーマンで斑点病、冬春トマトですすかび病の発生量が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : 斑点病 (冬春ピーマン)  
すすかび病 (冬春トマト)
- 2 作物名 : 冬春ピーマン、冬春トマト (大玉・ミニ)
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 斑点病 (冬春ピーマン) 多  
すすかび病 (冬春トマト) 多

### 5 注意報の根拠

#### (1) 斑点病 (冬春ピーマン)

令和6年12月中旬に実施した巡回調査において、冬春ピーマンでの斑点病の発生面積率は、60.0% (前年 9.1%、平年 22.5%) で平年比多、発病葉率は 5.9% (前年 1.0%、平年 1.1%) で平年比多であった (図1~2)。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年で最も高くなっている。

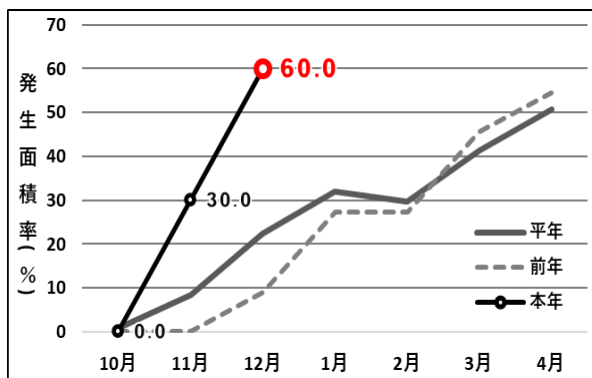


図1 発生面積率の推移

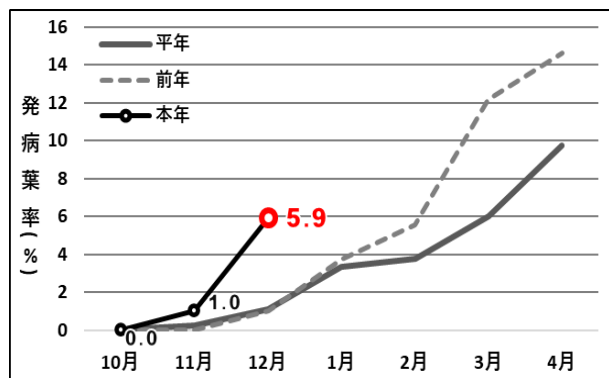


図2 発病葉率の推移

## (2) すすかび病 (冬春トマト)

令和6年12月中旬に実施した巡回調査において、冬春トマトでのすすかび病の発生面積率は、44.4% (前年 20.0%、平年 21.0%) で平年比多、発病葉率は10.5% (前年 4.3%、平年 3.4%) で平年比多であった (図3～4)。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年で最も高くなっている。

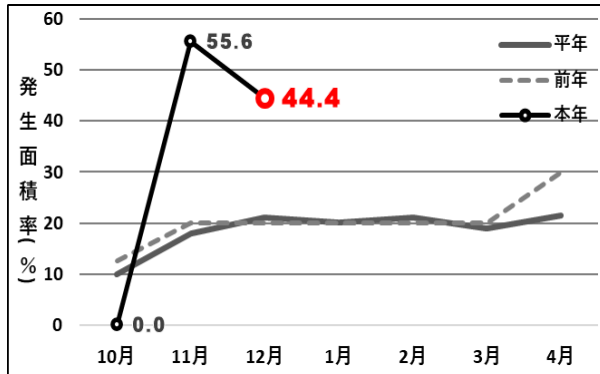


図3 発生面積率の推移

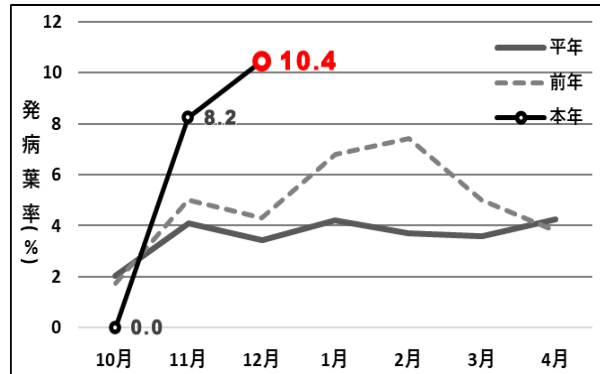


図4 発病葉率の推移

## 6 防除上の注意

- 1) 両病害とも過繁茂等により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。  
特に厳寒期は施設内保温のために、密閉時間が長くなるので、加温機で送風を行うなどして発病しにくい環境作りに努める。
- 2) 両病害とも発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ適葉し、すみやかにほ場外へ持ち出して適正に処理する。
- 3) 両病害とも多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおく。発病が見られたら、直ちに薬剤散布を行う。また薬剤選定の際は、耐性菌の出現を回避するため、可能な限り同一系統薬剤の連用を避ける。
- 4) ピーマン斑点病は、厳寒期において一時的に病勢の進展が緩慢になる傾向にあるが、3月以降は発病が増加する傾向にある (図1～2) ので、早期発見に努め、定期的な予防散布を実施する。

### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪、久野  
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp  
HP : [https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi\\_byogai/index.html](https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html)

